

金沢大学総合技術部生命部門1年目の活動報告と今後の育成方針

金沢大学 総合技術部 生命部門（医学系神経解剖学配属）
技術専門職員 玉谷貴志

金沢大学データ

●**起源**：1862年 加賀藩彦三種痘所

●**教職員数**：2,806人 役員9人、教育研究職員1,291人、事務職員436人、技術職員1,070人

●**予算**：総額55,801百万円（2018）

●**面積**：約265万㎡ 内閣キャンパス2,008,565㎡、宝町・鶴岡キャンパス151,053㎡、その他493,971㎡

●組織

3学域・17学部等：

人間社会学域 人文学部、法学部、経済学部、学校教育学部、地域創造学部、国際学部

理 工 学 域 数物科学部、物質化学部、機械工学部、フロンティア工学部、電子情報通信学部、地球社会創造学部、
生命理工学部

医薬保健学域 医学部、薬学部、創薬科学部、保健学部

国際基幹教育国際総合教育部

7研究科：

人間社会環境研究科、自然科学研究科、医薬保健学総合研究科、先端分子医学研究科、新学術創成研究科、法務研究科、
数理工学研究科

その他：

創薬研究、がん遺伝子創研究等

【教育】

●**学生数**：10,227人

学士課程7,862人、大学院（修士・博士前期）1,239人、大学院（博士・博士後期）1,038人、
専門職大学院59人、看護学部特別課程29人

●**入学者数**：1,787人 北陸3域出身 約47%

●**卒業生数**：1,770人 累計：91,258人 学士課程卒業生の約29%が大学院等へ進学

●**蔵書数**：193万冊 電子ジャーナル7,853タイトル

【研究】

●**学術論文数**：10,284件（2008.1-2018.2）

●**学術論文被引用数**：135,992件（2008.1-2018.2）

国内大学18位、世界788位、医学・歯科学分野 30位大学5位、神経科学・行動科学分野 国内大学10位

●**科研費**：914件 2,419百万円（2017実績）

●**外部資金**：共同研究 297件 477百万円、委託研究 269件 1,697百万円、寄附金 2,346件 1,275百万円（2017実績）

●**特許出願件数**：65件（2017実績）

【国際】

●**交流協定校数**：250機関（45か国1地域）

大学院交流協定校181機関（40か国1地域）、部局間交流協定校 69機関（22か国1地域）

●**外国人留学生数**：632人

●**海外派遣学生数**：594人（2017実績） 専攻学研修等を含む

●**外国人研究者等受入数**：494人（2017実績）

●**日本人研究者等海外派遣数**：1,598人（2017実績）

【医療】

●**病床数**：838床

●**外来患者数（1日平均）**：1,548人（2017実績）

●**入院患者数（1日平均）**：719人（2017実績）

【社会貢献】

●**自治体等との協定数**：32件

●**公開講座数**：36講座（2018）

【大学ランキング】

●**Quacquarelli Symonds Ltd.**

QS Asia University Rankings 2018：国内 20位、アジア圏 122位

QS World University Rankings 2018：世界 551-600位

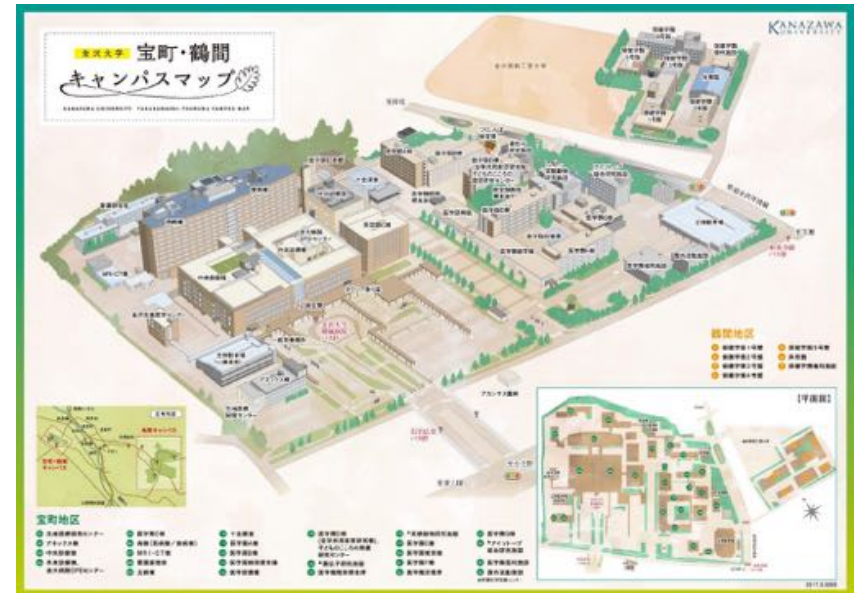
●**Times Higher Education**

Japan University Rankings 2018：国内 20位

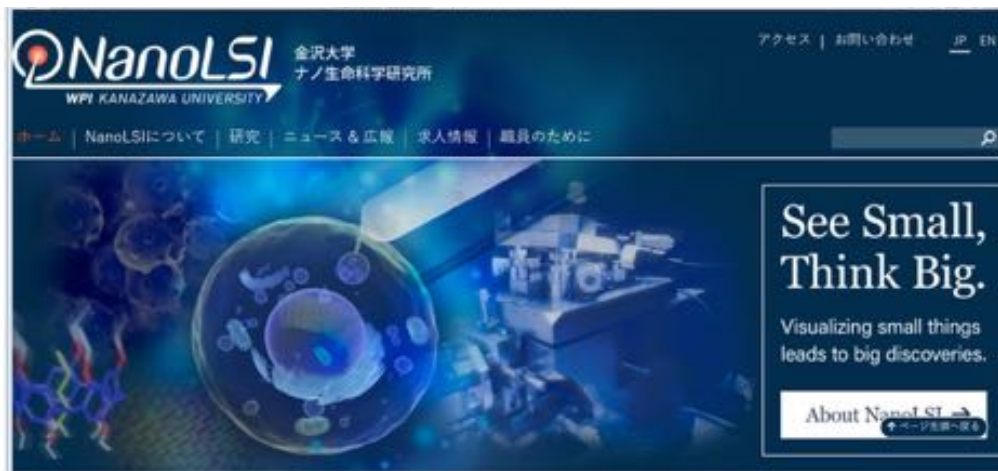
World University Rankings 2018：世界 601-800位

金沢大学概要2018より抜粋

金沢大学のキャンパス



総合技術部 平成30年度活動紹介



金沢大学 ナノ生命科学研究所HP

「世界トップレベル研究拠点プログラム」(WPI) に採択

登録日：2017年9月26日

このたび、本学は、文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム」(WPI) に採択されました。

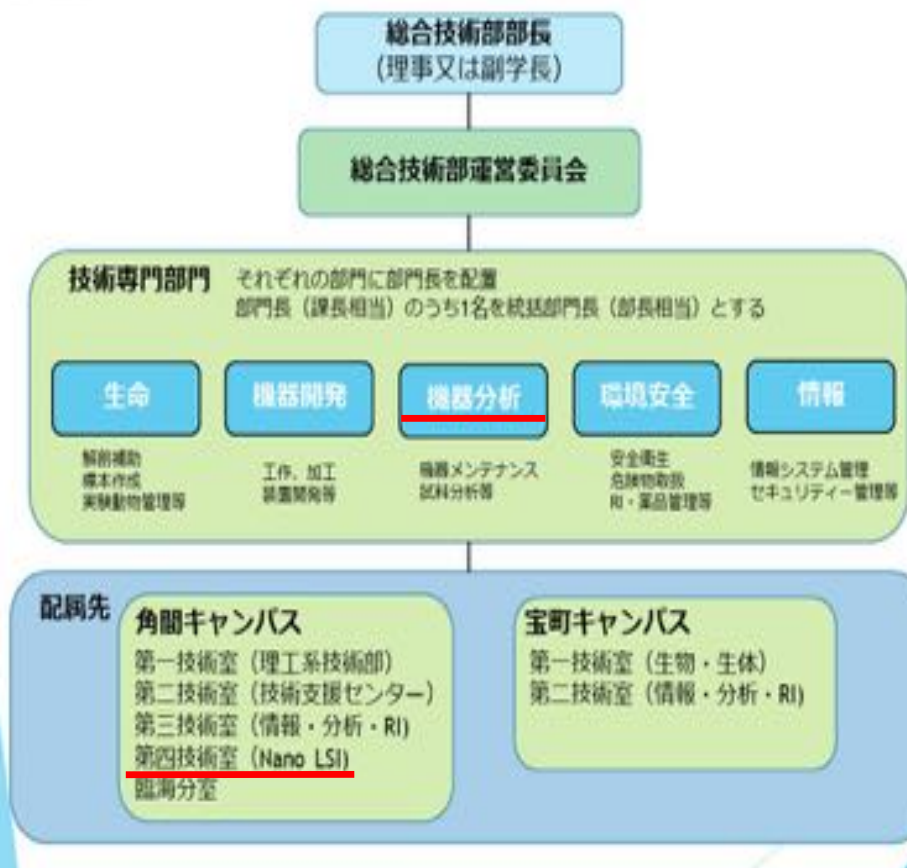
WPIとは、平成19年度から文部科学省が推進している、優れた研究環境と極めて高い研究水準を誇る「世界から目に見える研究拠点」の形成を目指す事業で、これまでに9つの拠点が採択されています。今年度の公募では15大学が応募し、本学と東京大学が採択され、今後10年にわたり、年間約7億円の支援を受けることとなります。

今回の採択を受け、9月26日、角間キャンパスにて記者会見を行い、本学の山崎光悦学長、向智理理事(総括・改革・研究・財務担当)、福森義宏理事(企画評価・情報・社会貢献担当)、福岡剛土理工研究域電子情報学系教授、大阪大学の森田清三名誉教授らが出席しました。はじめに、山崎学長が「この事業を通して、世界中の研究者が金沢大学で研究することを目指す、国際的一大研究拠点を作り上げます」と意気込みを述べ、続いて福岡教授が本事業の概要説明を行いました。

本学は、本事業において「ナノ生命科学研究所」(NanoLSI)を新設し、本学が強みを持つ原子力顕微鏡技術・がん研究・超分子化学といった分野の知見を融合・進化させ、細胞やその内部・表層の動きをナノ(10のマイナス9乗)レベルで観察・分析・操作できるナノ内視鏡などを開発するとともに、それにより、「がん」を含むさまざまな生命現象をナノレベルで根本的理解することを目指します。

金沢大学 HPより

総合技術部 組織構想案



作業室については現在も継続審議中であるが、総合技術部機器分析部門の業務としてNano生命科学研究所に技術サポートをおこなっている。

宝町キャンパスにおける総合技術部（検討時期を含む）としての実績

外部の研究会・発表会・研修の参加実績

平成28年度	総合技術研究会	聴講参加1名
	東海・北陸地区国立大学技術職員合同研修	参加1名
平成29年度	技術職員シンポジウム	発表参加1名
	九州大学技術発表会	発表参加1名
	実験・実習技術研究会	聴講参加1名
平成30年度	SD研修型シンポジウム	参加1名
	技術職員シンポジウム	発表参加1名
	総合技術研究会	発表参加3名
	東海・北陸地区国立大学技術職員合同研修	参加1名

学内での活動

勉強会の開催	7月	奨励研究に関する説明会・各技術職員の業務紹介
	8月	研究会、研修への参加要請・各技術職員の業務紹介
	9月	各技術職員による業務紹介

* 参考資料

金沢大学国際基幹教育院高等教育開発・支援部門
山形大学教育開発連携支援センター
大正大学

教育関係
共同利用拠点

金沢大学・山形大学・大正大学合同シンポジウム 大学組織変革は誰がいかにかに担うのか？ -「チェンジ・エージェント」の提案-

目的
大学においてFD・SDプログラムを企画・設計・運営していくためには、大学ごとに異なるミッション、組織文化、各大学が置かれた内外の環境、人的・物的リソース等の特性に応じてプログラムを開発し実現していくことが求められる。参加者が3大学の組織特性に応じたFD・SD事例を参考にしつつ、これからの大学組織変革についての対話を行い、省察を通してFD・SDを包括する大学組織開発を担う新たな役割を考える機会としたい。

日時 2018年6月8日(金)14:00-17:50 (18:10-19:30 情報交換会)

会場 一橋講堂 中会議場 <http://www.hit-u.ac.jp/hall/>
(東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内)

対象 国公立の大学教職員、高等教育関係者
(特に職員人事や人材育成に興味・関心ある方)


定員 100名 (5/31(木)申込締切)

プログラム

13:30 受付開始
14:00-14:10 シンポジウム趣意説明
金沢大学 国際基幹教育院高等教育開発・支援部門長 吉永賢一郎 教授
14:10-14:40 オープニングトーク
「企業人、事務職員、教員へのトランジション経験からのFD・SDの考察」
愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室 上島洋佑 特任助教
14:40-16:00 対話のアクティビティ①(ワールドカフェ①)
「自大学のFD・SDの省察 - 何を何のためにやってきたか」
金沢大学 国際基幹教育院高等教育開発・支援部門 杉森公一 准教授
発案デザイン研究室・福井大学教職大学院非常勤講師 富永良史 氏

16:10-17:20 ③大学 FD・SD事例紹介
(1)「地方中小規模大学・短大を対象とした教育改善・改革の支援システム開発とその展開」
山形大学 教育開発連携支援センター長 小田隆治 教授
(2)「職員ビジョンに基づいた人材育成制度の構築について」
大正大学 学長室人事課 森田百合子 課長
大正大学 学長室人事課 杉田美濃 主任
(3)「自律的な組織開発・人材開発のためのリーダー養成」
金沢大学 SGU企画・推進室 松村真彦 専門職員

17:20-17:40 対話のアクティビティ②(ワールドカフェ②)
「自大学のFD・SDの省察 - これから何のために何を」
17:40-17:50 閉会の挨拶(シンポジウム総括)
山形大学教育開発連携支援センター長 小田隆治 教授
18:10-19:30 情報交換会 / 3,000円(事前登録)



お申込 <https://ws.formzu.net/fgen/530774956/> 5/31(木)申込締切
連絡先 金沢大学国際基幹教育院高等教育開発・支援部門
e-mail: fsdkiyoten@adm.kanazawa-u.ac.jp tel: 076-264-5837 fax: 076-234-4172
URL: <http://herd.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

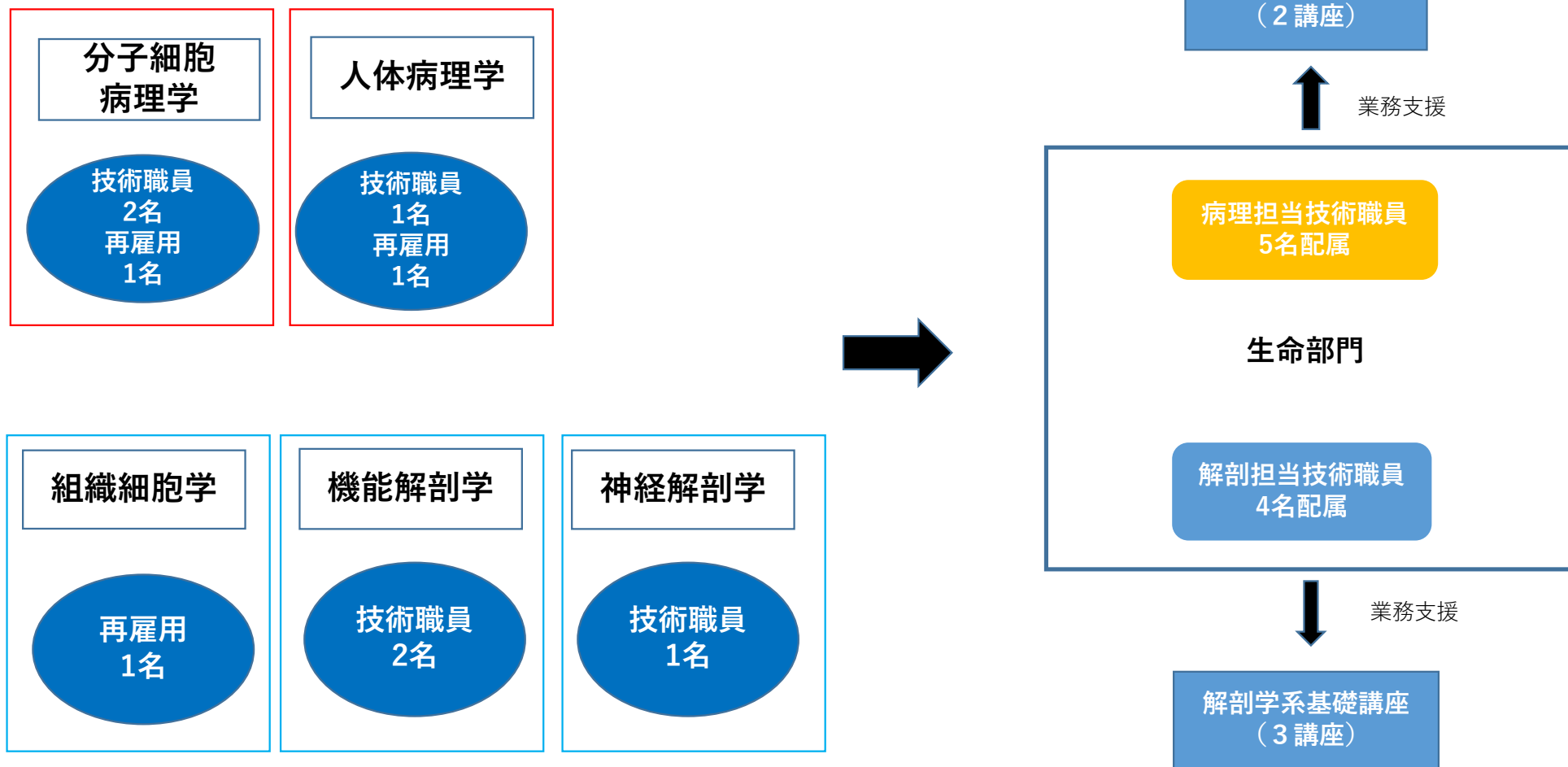
参加の経緯、感想

総合技術部が設立されたことでこのようなシンポジウムに医学系技術職員が参加できるようになった。基礎講座配属のみであれば出張として認められないであろう。他の医学系技術職員にも自発的な活動を促すためという意味合いも込めて参加することとした。

基本的には事務職員、教員を対象としたシンポジウムのため技術職員の業務に直接反映される話題が無かったが組織マネジメントについて大変参考になった。

異文化交流として刺激を受けた反面、技術職員(生命科学系)に特化したSD研修の必要性を感じた。

病理・解剖系業務に携わる技術職員の配置検討案



総合技術部の職員として複数の基礎講座に対して業務を行う

平成31年度の活動計画

- ・業務改善改革プロジェクトへの応募

学内職員を対象に創意工夫・アイデアを業務改善に生かし、大学運営本学職員の活性化を図るとともに、職員のモチベーションやモラルの向上を促すことを目的とした学内公募型プロジェクト

＊平成28年度 理工研究域の技術部として2件採択

- ・技能向上のための学内研修実施

- ・組織マネジメントに関する学内研修実施

医学系技術職員の意識を変えるキーワード

- ・大学設置基準等の一部を改正する省令（平成29年4月1日施行）

SD（スタッフディベロップメント）の義務化

- ・労働安全衛生法 改正（平成28年6月1日施行）

リスクアセスメントの実施

- ・第三期中期目標期間（平成28年度～平成33年度）

総合技術部として活動するための準備期間

平成29年度金沢大学業務改善・改革プロジェクト成果報告会を開催

登録日：2018年6月1日

5月30日、総合メディア基盤センター2階プレゼンテーション室において、平成29年度金沢大学業務改善・改革プロジェクト成果報告会を開催し、教職員等約40名が参加しました。

本プロジェクトは、本学職員の創意工夫・アイデアを業務改善に生かし、大学運営の活性化を図るとともに、職員の子子バージョンやモラルの向上を促すことを目的として平成28年度から実施しているものです。

報告会では、平成29年度に採択された15グループがパワーポイントや配布資料を用いて発表を行い、それぞれのプロジェクトの活動内容、得られた成果や今後の展望などを報告しました。最後に、山崎光悦学長から、「業務改善のための活動が活発になってきている。特に若手を中心として活動を継続することにより、今後ますますの業務改善・改革を期待したい」との激励がありました。

カテゴリー別

[研究トピック \(206\)](#)

[入試情報 \(283\)](#)

[ニュース \(4,163\)](#)

年別アーカイブ

[2018 \(247\)](#)

[2017 \(310\)](#)

[2016 \(334\)](#)

[2015 \(336\)](#)

[2014 \(352\)](#)

[2013 \(356\)](#)

[2012 \(380\)](#)

[2011 \(376\)](#)

まとめ 今後の課題

基礎講座（施設）の業務内容に対する評価システムの構築

総合技術部としての業務運営体制の構築

人事（採用含む）に関する裁量権

基礎講座（施設）の業務と総合技術部の業務の比率

理工系技術職員との連携体制の構築

育成方針の決定権

人材育成担当としての業務

全国的な医学系技術職員についての調査

生命部門の育成方針の検討ため他大学の医学系技術職員の活動を調べることにした。
その際、全国の医学部が設置されている国立大学42校における技術部のHPの有無を確認することとした。

医学部が設置されている国立大学37校において

(金沢大学と単科大学を除く)

全学的な技術職員のHP 約27%

工学部内の技術部としてのHP 約70%

医学部が設置されている国立大学41校において

(金沢大学を除く、単科大学を含む)

医学部内の技術部としてのHP 約14%

* ネット検索を基にした集計ですので必ずしも正確とはいえません

総合技術研究会 開催校一覧

開催日	開催機関	演題数	演題数 (金大)
3/9/17'	東京大学	400	5
9/7/14'	北海道大学	405	5
3/7/13'	愛媛大学	372	2
3/17/11'	熊本大学	511	3
3/9/09'	京都大学	414	1
3/1/07'	名古屋大学	300	0
3/3/05'	大阪大学	241	0
3/6/03'	東京大学	240	1

人材育成担当としての業務 3

平成30年度の奨励研究採択課題の紹介

新固定法による系統解剖実習におけるホルムアルデヒド曝露濃度低減効果の追跡調査

代替キシレンに伴う組織標本作製時の作業工程と作業環境の整備

低濃度ホルマリンを用いた解剖体固定法の検討

若手教員の体育授業マネジメント力向上に資する研修プログラムの開発

* 全課題 獲得資金53万円

* 個人的には「神経解剖実習におけるホルマリン代替品の有効性の検討」で応募するも、、、、

ご清聴ありがとうございました